

# 第29号の刊行にあたって

平 正 人

文教大学教育学部教授（同教育研究所所長）

## Introduction

TAIRA MASATO

(Director-General, Institute of Educational Research, Bunkyo University)

紀要第29号では、依頼論文2篇、研究論文3篇、実践研究2篇、実践報告1篇、計8篇の研究成果を掲載することができた。まずは、コロナ禍がいまなお社会を震撼させているなかで、ご執筆いただきました皆さまには心より感謝申し上げたい。以下、本号の構成を紹介する。

はじめに、今年度の共通テーマを「防災・安全教育の現状と課題」に設定した。このテーマを採用するにあたってわれわれが想定していたのは、2019年10月11日から12日頃に発生し、多くの被害をもたらした「令和元年台風19号」であった。しかし、本号に収録された依頼論文「大規模災害続発下の学校防災にどう備えるか」と「生きる力を育む学校安全教育を目指して ―越谷市立中央中学校の実践―」は、現在、さらなる意義を獲得していることは言うまでもないだろう。

つぎに、自由研究として、「教員志望の大学生はなぜ英語教師をあきらめてしまうのか ―自ら進路を考え・決めることができる問診票作成のために―」（研究論文）、「保育者養成におけるビブリオバトルの継続的な実践による意義」（研究論文）、「コロナ禍における夜間中学の学習支援のあり方と情報モラル教育の必要性」（研究論文）、「カウンセリングの演習授業についての実践研究Ⅱ ―リアルタイム型オンライン演習を導入して―」（実践研究）、「インターネットテレビ電話を使用した小学生による国際的対話活動の実践と学び ―インドネシア・アチェと東北間での対話活動を事例に―」（実践研究）、「新科目『日本史探究』の主題学習を想定した授業実践」（実践報告）を収録する。教師という職業に対する大学生の意識、ビブリオバトルのコミュニケーション機能、公立中学校の夜間学級や大学の演習科目におけるオンライン授業の活用、オンラインによる国際交流活動、高等学校において新たに導入される「日本史探究」の授業実践例など、さまざまな立場・視点から多角的かつ実証的な考察が繰り広げられている。この機会に是非ご一読いただきたい。